図書館授業レポート②

理科実験における図書利用

理科　廣山　直貴

本校二年生の探究コースの特別なカリキュラムとしてゼミを実施しています。他のコースにはない毎週火曜日の八限目に実施しています。実際そのゼミの時間だけでの実験は難しいため、夏休みや、放課後を使って行っています。

その中で、私が担当している理科（生物分野）では女子生徒六人が主体となって生物実験を実施しています。

生徒たちとの話を繰り返す中で、本年度は空気中に存在する菌を調べる実験をすることになりました。

教科書に載っていない内容のため、図書館で本校司書の松田さんに関連図書を調べていただきながら、資料を探しました。その時、本校図書館になく、ほしい図書があり、県立図書館に依頼して配達していただきました。その資料をゼミの生徒が自ら、必要な内容を調べ、実験に必要な器具・薬品・方法を確認し、必要に応じて薬品などを注文しました。内容はかなり難しいものですが、いろいろな図書を調べながら、時にはインターネットで調べながらの準備となりました。

実験の準備の整った夏休み中の補習の午後三日間を利用して、最初の実験を実施しました。初めて使う器具なども多く、実際やってみるとやりにくいことや、準備が足りないものもありました。試行錯誤を繰り返しながら暑い生物実験室の中、だらだらと汗をかきながら、どうにか初めての実験を実施することができました。しかし、最初の実験はうまくいきませんでした。培地をつくるときにうまく寒天がかたまらず、透明になるはずでしたが、白く濁ってしまいました。その原因を調べるために、図書館の資料を調べながら、私と生徒たちとで失敗理由を考察しました。資料を読み返す中で、培地を十分に溶かしてから、滅菌をするようになっていたのですが、その順番を間違えて実施していることが判明しました。

今回の失敗は、資料の読みこみの甘さにあったことが原因でした。人間の知識は忘れても、本は内容を忘れることはない。結局は人為的なミスでした。もう一度、資料をきちんと読み、再度実施したいと思います。

今後も、生徒が主体となって、図書館で図書やインターネットなど様々な情報メディアをうまく活用し、テーマや実験を生徒自ら考えて、調べ、探究することで興味関心を引きながら、授業を実施していきたいと思います。

[redacted]

図書館で調べる？　ネットで調べる？

司書教諭　田中　かなで

ほとんどの人がパソコンやスマートフォンを所有し、活発な情報取得・発信活動を行っている現代において、インターネット環境さえ整っていれば、私たちは簡単な作業で情報の海に乗り出すことができます。知りたい項目を検索すれば、すぐに何十万件ものページがヒット。この中から適当なものを選んで、必要とあらば簡単にコピー＆ペースト。こうした状況下で、書籍や図書館の持つ意味とは何か、もしかしたら調べ物をするのにもはや図書館に出向く必要性はないのではないか、という疑問が生じるのも不思議ではありません。それほど、日常生活において、情報にアクセスするための媒体として書籍を選ぶ機会は少なくなってきているような気がします。

結論から言えば、調べ作業をするために「ネットだけ／本だけ」と手段を二者択一してしまうのはもったいないことです。どちらにも同じように利点があるからです。

確かに、インターネットや携帯に比べて、本で調べるという動作は圧倒的に負荷が大きいです。まず本を選び、次に目次や索引を見て、ページをめくり、文字を目で追い……。こうした作業に対して、検索の素早さでも、情報の新鮮さや速度・量においても、インターネットは優っています。しかしながら、一番の疑問は情報の信憑性です。誰でも自由に情報を発信・更新し得るため、検索した情報が本当に正しいものかどうか、常に疑わなければなりません。ネット上の情報は、確かなソースが示されていない限り、鵜呑みにするのは危険です。また、表層だけなら情報の数は確かに多いのですが、専門的になればなるほど情報が得にくくなるという問題点もあります。

書籍には、紙面の見渡しやすさ、読みやすさ、保存性、情報元となる文献に直接あたれるといった利点があります。電子機器に頼る必要もありません。発行されるまでに何重もの校正を経ていますから、情報の信頼度も高いです。図書館では、絶版になった出版物から最新の雑誌・新聞に至るまで直接閲覧できますし、項目ごとに書籍が並んでいるため、必要な情報に関連する書籍が探しやすいです。ネットでは検索をかけた語句に関するページしかあたれませんが、本ではその語句が関連する分野の情報までたどることができるのです。

こうしてみると、インターネットは「情報の量」、書籍は「情報の質」においてそれぞれ優れていると言えます。自分が調べたことが正しいかどうかは、常に複数の資料で確認することが理想的です。ネットと本とのそれぞれが持つ利点をうまく活用できれば、知識が一層豊かになるでしょう。

そして、忘れてはならないのは、的確な情報にたどりつくためには何らかの助けが必要だということです。そのために図書館は存在しているといっても過言ではありません。八頭高の図書館では約四万八千冊の蔵書と、十三台のパソコンが必要に応じて利用できます。すべての人が気軽に立ち寄れる図書館を、ぜひ有効活用してください。